

4 月会山行 雄冬山（1 1 9 7 m）幌コース

平成 26 年 4 月 26 日(土)～27(日)

CL 小山内 山スキー SL 山岸 西田 相馬 長沼 酒井 佐藤 谷 渡邊

スノーシュー SL 藤木（た） 及川 鈴木

計 12 名

行程 4 月 26 日(土) 6:45 自宅出 7:50 幌別西口 13:45 幌コース 260m 付近テント場到着 19:30 消灯？

4 月 27 日(日) 3:00 起床 4:45 テント場出発 6:00 大阪山 8:40 浜益御殿

9:00 雄冬山、浜益御殿最低コル 10:25 スキーデポ 11:00～11:10 雄冬山 11:30 スキーデポ地

12:15～12:50 最低コル昼食 13:30 浜益御殿 14:25 大阪山 15:00 テント場

15:30 スノーシュー組到着 15:55 テント場撤収 16:30 浜益温泉 21:45 自宅。

今回、挑戦が 5 回目だとか、私は 3 回目、朝から良く晴れ渡ってよい天気、明日も晴れがつづく天気予報。
何時もより良いのは遅い出発、高速道路に乗りひたすら浜益へ、天気良すぎて雪があるのか心配。



幌林道



2 6 0 m 付近

浜益コンビニ前の公園で昼食、忘れていけないのがタコの刺身、購入して幌の林道へ。道路にはまだ雪が残って車で行ける所まで行くことに、途中、山岸車がいくのを残念したが、雪の上を小山内車がみんなの力を借りて通り抜け、全車が 2 6 0 m 付近まで登りきりテントを立てた。



支度中



どうだ～



おいしそう



明日は晴れますように

早速、夕飯の支度にとりかかる。もちろん男組が調理。タコ刺し、ポテトサラダ、とり鍋、自家製の漬物など16時には宴会が始まり料理の話に花が咲いた、山の話は、危くないアクシデントの話、これは2、3年話に出て来るかな。話は尽きないもの、あっという間に消灯の時間、明日を楽しみに熟睡。



いざ出発



浜益御殿、雄冬山をバックに

朝、3時に目ざまし鳴る前に目が覚める、これっていつもの習慣。カップヌードルとテルモスにお湯を貰いおにぎり朝食を済ませた。登山の準備をして、準備体操を念入りに行い出発、平坦な雪道を大阪山まで登る。登りに1時間短縮したおかげで足取りも軽い。尾根の分岐に出ると浜益岳が正面に見えてきた。大きな山に感じるのは自分だけか。この付近からスノーシュー組が先頭に立ちスキー組は追いつくのがやっと、浜益御殿に4時間足らずで登った。前方に雄冬山、右に浜益岳が見える。シールを付けたまま最低コルまで下る。雪の重いこと。ひと休みして雄冬山に、近づくほどに尾根はだんだん狭く急になり1025m付近でスキーをデポ。スノーシュー隊はもう頂上に近づいている。後を追いついたすら頂上を目指す、スノーシュー隊のステップのおかげで安心して登ることができた。ありがとう。



雄冬の登り



雄冬山山頂

山頂から360度のパノラマ、今まで見えなかった三角垂で鋭くとがった群別岳がすぐそこに感無量、頂上で写真を取りすぐに下山、風が強く飛ばされそうになりながら、急な斜面を慎重に下る。デポ地点まで来て一安心。スキーをはき滑降、下りはスキーの方が早い。最低コルまで行き雄冬山を見ながらおにぎりを食べる。ここでもしか味わえないひと時の時間。腹ごしらえをして浜益御殿の登りシールを付け、ただひたすらにまっすぐに登る。途中、浜益岳から帰ってくる登山者と合流。天気が良いせいか結構登っている。御殿からスキーの見せ所、滑ったのはいいがさらに雪が重い、スピードが出ない滑降のスロウモーション状態、何とかテンバまで無事生還。スノーシュー組も30分後に到着。テントを片付け帰路に、途中、やっぱりタコの刺身を買いにいつもの店に立ち寄り。浜益温泉で疲れをとって一路幌別・室蘭に。無事に自宅へ到着しました。

リーダーはもちろん、疲れているなか長い間、運転された運転手の皆様ありがとうございました。

記録 渡邊